

犬の腫瘍疾患 10歳で6頭に1頭が発症

■ 年間の診療費は10歳で8万円以上

■ かかりやすい犬種は「ゴールデン・レトリバー」「パグ」「ラブラドル・レトリバー」

アニコム損害保険株式会社（代表取締役社長：小森 伸昭）では、ガン制圧月間（※1）に合わせて、アニコム損保のペット保険「どうぶつ健保」の保険金請求データを基に、犬の腫瘍疾患に関する調査を行いました。

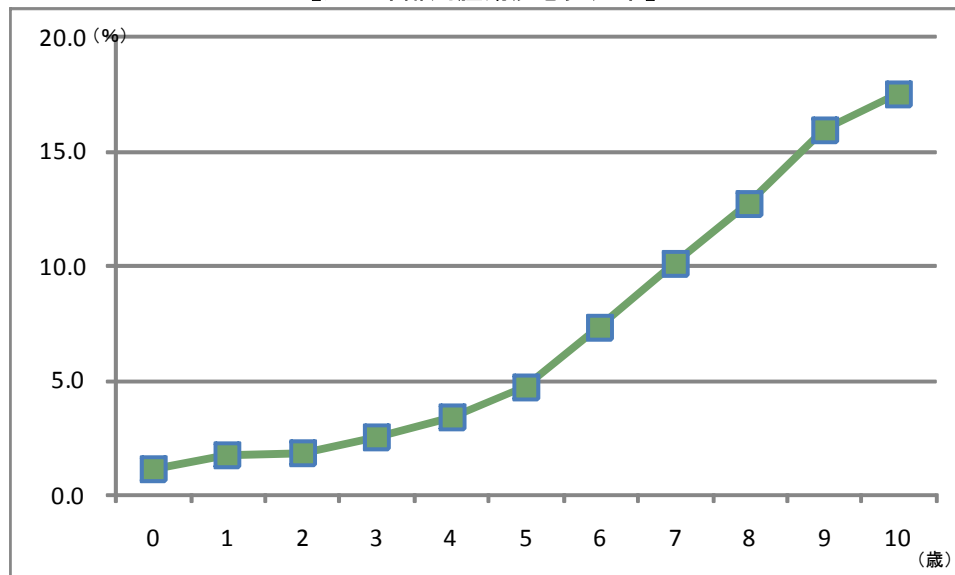
（※1）昭和35年より、がんについての正しい知識の普及、早期発見及び早期治療の徹底を目的として、様々な取り組みが行われている。

■加齢に伴い上昇する発症率

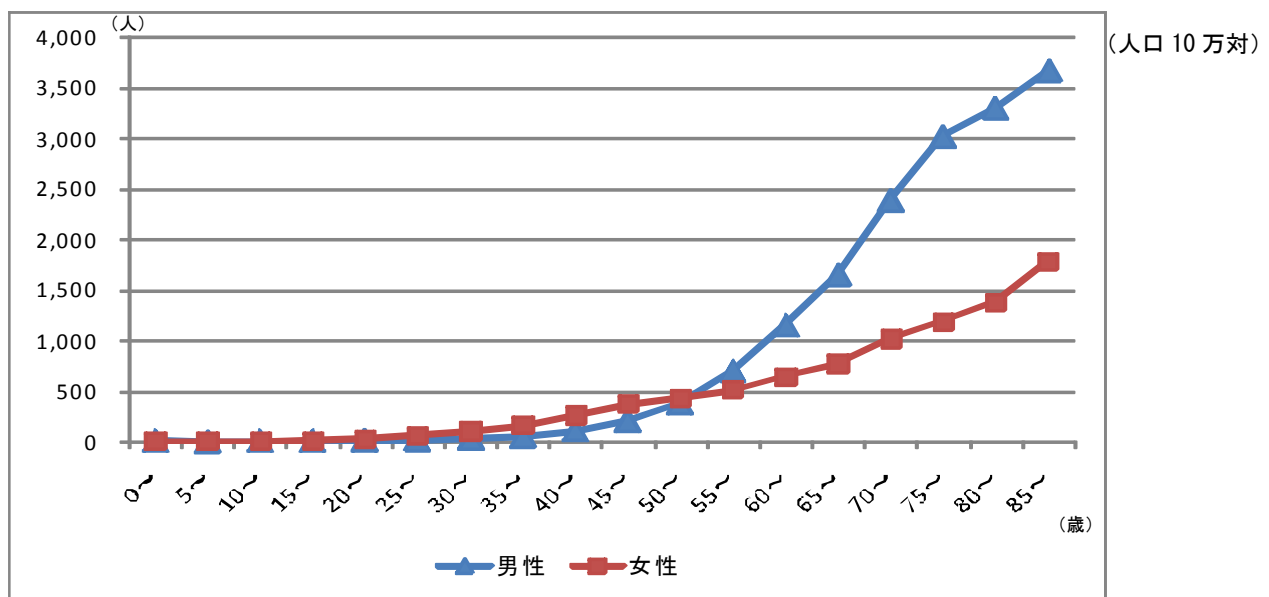
犬の腫瘍疾患の発症率を集計したところ、人と同じように、加齢とともに上昇し、7歳では10.1%、10歳では6頭に1頭にあたる17.5%が発症していることがわかりました。人では、男女ともに2人に1人ががんと診断され、男性では4人に1人が、女性では6人に1人ががんで亡くなっているといわれています（※2）。

（※2）がんの統計 - 財団法人がん研究振興財団より

【犬の年齢別腫瘍疾患発症率】



（参考）【人の年齢階級別がん罹患率（2006年）】



■10歳の診療費は年間8万円以上

腫瘍疾患の診療費にも、発症率と同様に、加齢に伴い増加する傾向が見られました。人間の40代にあたると言われる6～7歳では6～7万円台となり、10歳では男女共に年間8万円を超える診療費がかかることが推計されます。

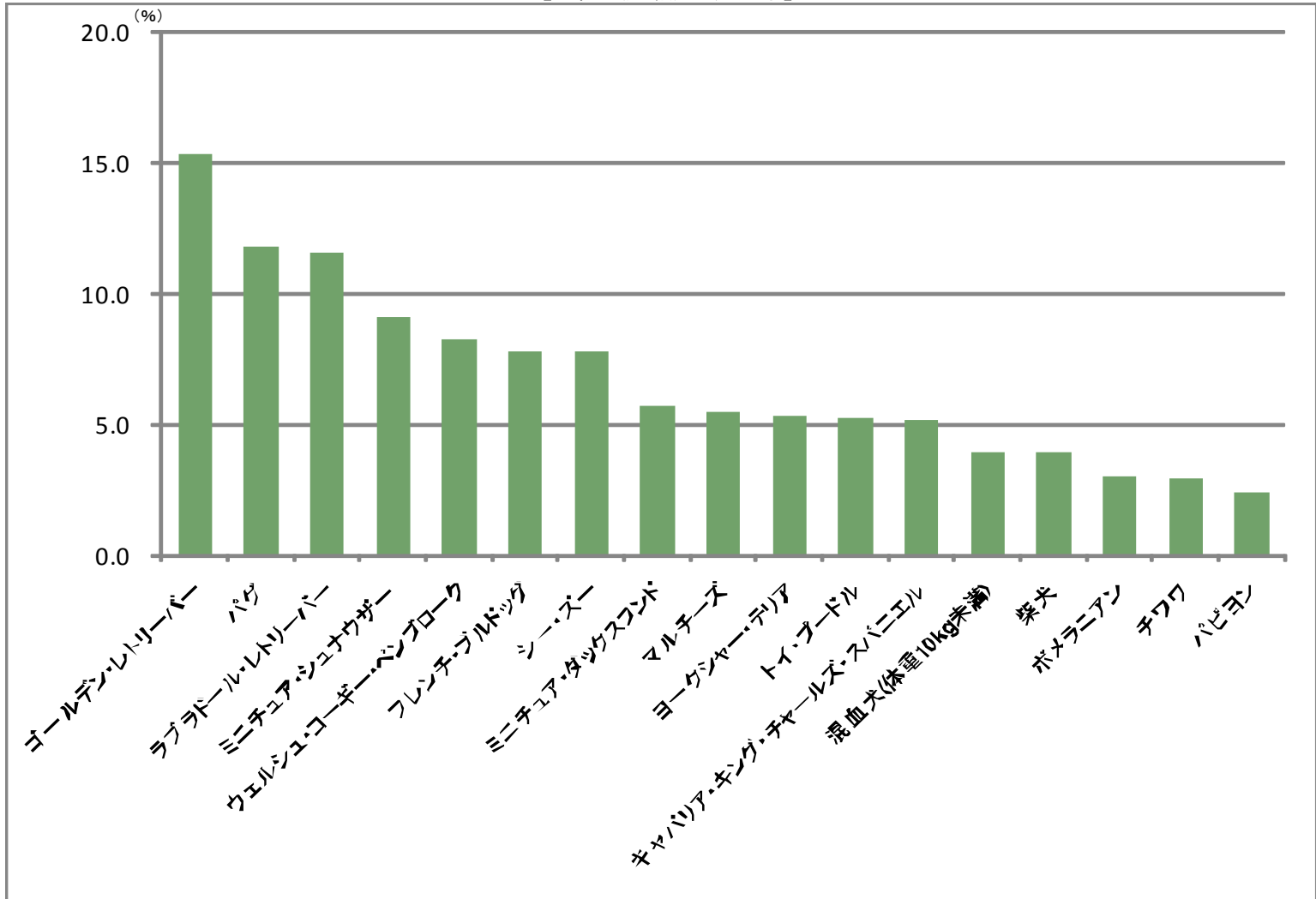
年齢(歳)	年間診療費(円)	
	男の子	女の子
0	18,698	15,919
1	29,912	21,662
2	31,526	34,378
3	34,656	32,363
4	40,377	52,588
5	51,303	54,716
6	61,385	60,123
7	79,582	77,708
8	77,792	91,000
9	96,805	89,653
10	80,125	91,862
0-10歳平均	54,742	56,543

(保険金支払額より推計)

■かかりやすい犬種

さらに、犬種別の発症率を調査したところ、発症率が高かったのは「ゴールデン・レトリバー」「パグ」「ラブラドル・レトリバー」「ミニチュア・シュナウザー」でした。これらの犬種では特に注意が必要です。

【犬種別腫瘍疾患発症率】



愛犬を腫瘍疾患から守るためには、人と同様に「早期発見・早期治療」が重要です。日頃からこまめに観察し、定期的に検診を受けましょう。

【集計方法】2008年度にアニコム損保に契約した犬217,150頭(0～10歳)を対象に「腫瘍疾患」の請求データを集計した。